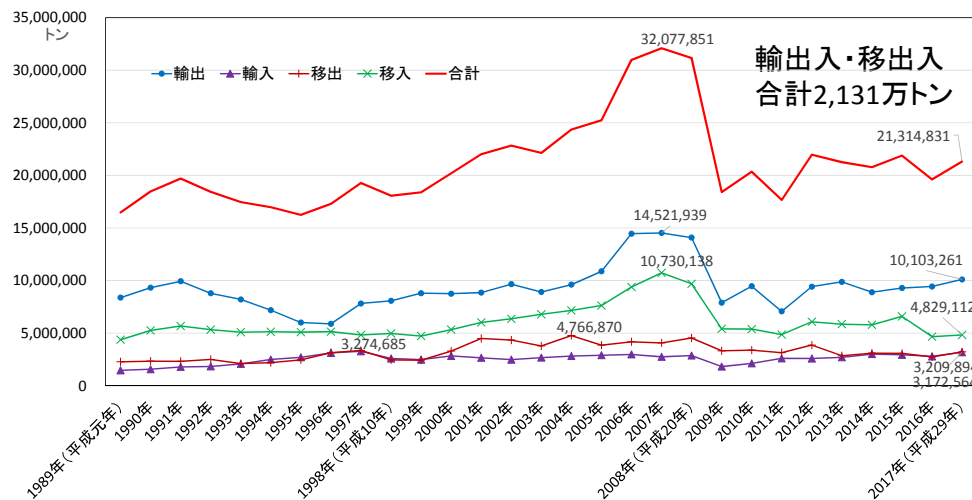


平成30年度 次期三河港港湾計画改訂に向けた提言に係る調査業務 実施概要 (東三河広域経済連合会 委託事業)

1. 業務の目的

本業務は、平成23年に策定された現在の三河港の港湾計画(第6次港湾計画)が、平成30年代前半に改訂時期を迎えるにあたり、東三河地域の3商工会議所11商工会で構成される東三河広域経済連合会が組織した「次期三河港港湾計画改訂に向けた提言策定委員会」において委員会に必要となる三河港のデータ等の資料を収集整理し、提言書の作成を支援した。

2. 調査結果(一部抜粋)



資料: 三河港湾統計年報より作成

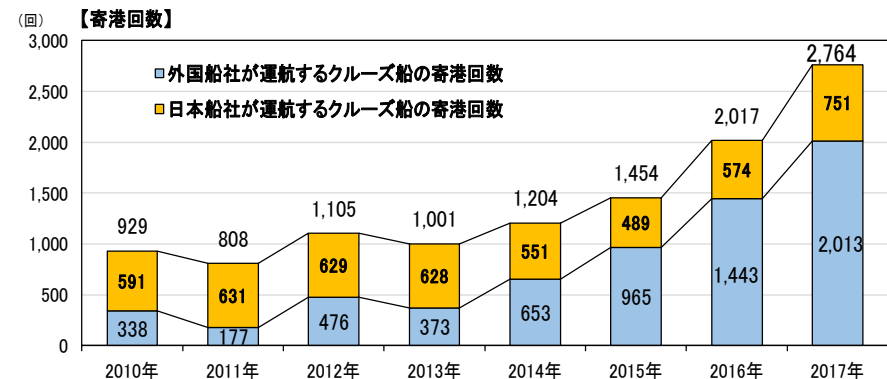
■三河港の取扱貨物量の推移(1989年～2017年)(上図)

三河港の貨物量の推移をみると、2008年のリーマンショック前まで3200万トンまで増加した。その後、貨物量は増減を繰り返しながら推移している。平成29年(2017年)は年間約2100万トンの取扱があり、輸出貨物が半数を占める状況にある。

■農作物、林産品の輸出可能性の拡大(右図)

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」(2013年8月策定)において、農林水産品・食品輸出額の1兆円達成を目指すこととされている。輸出に戦略的に取り組む港湾においては、国の主導で港湾施設の整備が進められている。

東三河地域においては、地元産の農産物をアジア各国へ輸出する取り組みや輸送実験の検証が進められている。三河港背後地の農産物生産のポテンシャルを活かし、貨物の多様性を確保するためにも、三河港においても農産物輸出の戦略化が期待される。



■クルーズ旅客船の寄港実績の増加(上図)

クルーズ客船の日本への寄港回数は2,764回で(前年比37.0%増)過去最高を記録。蒲郡地区では2019年、2020年と連続して大型クルーズ客船の寄港が予定されている。

